

(1) 大宮駅東口まちづくりコンセプト (たたき台)

■「東日本の玄関口」に相応しい象徴的な駅前をつくる【Symbol】

- ・首都圏広域地方計画における対流拠点としての位置づけや、都市再生緊急整備地域の指定を踏まえ、これまで以上に多様で高次の都市機能を集中させながら、機能・景観ともに東日本を代表する象徴性と求心性を確保していく。
- ・その際、我が国全体が抱える人口減少や高齢化の進展、AIをはじめとする技術革新の急速な進化など、経済・社会情勢を的確に見据えていく。

■歩き立ち止まることが快適に感じる駅前をつくる【Walkability】

- ・商都・大宮の中核地域であることから、「来街者ファースト」の発想により、進展する高齢社会のモデルとなる、誰にでも安全安心で、心地良く、楽しく過ごせる歩行者環境の形成を持続的に行うこととする。
- ・中央通り、旧中山道、銀座通り、南銀、及び、東西方向の細街路を賑わいの場として、沿道の喧噪を継承しつつ、歩行者目線の素敵な街並みを整備・管理運営していく。

■交通結節拠点としての利便で安全な駅前をつくる【Safety-Hub】

- ・鉄道の一大拠点駅である大宮駅周辺の交通結節性を高めるべく、公共交通機関等との乗換えの利便さや安全性を確保するとともに、各地区の再開発等が協調しながら、駅前における道路基盤の補完を図り、周辺市街地の交通負荷を平準化していく。

■豊かな自然との近さを主張する駅前をつくる【Naturehood】

- ・街の発展を支える氷川神社周辺（大宮公園）や見沼における、豊かな自然が身近な駅前であることを特徴ととらえ、それらとの関係を「軸」として意識するとともに、「緑」を主題とした環境形成を持続的に行うこととする。

■まちづくり機運に合わせて段階的に駅前をつくる【Step-by-step】

- ・大宮駅東口のまちづくりは、各地区における土地・建物を所有する権利者の方々の協力と、地区間の協調・連携が必要であることから、具体的なまちづくりに関する合意が得られる地区から、段階的に事業化（都市計画手続きを含む）を進めていく。
- ・事業化に先立ち、各事業地区等が協調していくべき取り組みを、ルール（ガイドライン、地区計画等）化していく。



■大宮駅東口は、氷川神社まで直線距離で約 1.2km、見沼の緑地までは2km 弱という距離関係にある。
■現在、大宮駅から半径 400m(徒歩で5～8分) 圏内に、主要な機能は立地・集積している。
■大宮駅東口駅前には、氷川神社や見沼からの「軸」線が潜在的に集まっている。